

# 全鉄連情報

平成21年 9月16日刊

[第74号]

目次

P 1 加盟団体報告

P 2 鉄鋼課連絡会報告

P 2 常任理事会報告

P 2～4 鉄流懇報告

P 4 企業消息

P 4 会員入退会

P 5 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

## 加盟団体報告

(平成21年 5月22日

～21年 8月31日)

### 会長はじめ役員全員留任

#### △福岡鉄鋼販売業組合 (鳥山昭理事長)

5月27日(水)福岡市内のホテル日航福岡で定期総会を開催。会員他約40名が出席した。今年度は役員改選期にあたり、鳥山昭理事長(チクシ鋼機)ははじめ役員全員を再選した。鳥山理事長は「今年は中小企業にとって存亡の年である。昨年秋からの世界同時不況で、円換算にすると約500兆円の緊急対策資金が注入されたようだ。近い将来、もう少し良くなる状況になると期待している。今の厳しい状況では歯を食いしばり、次のステップに繋ぐよう、頑張っていこう」と挨拶した。

#### 厳しい状況下だが親睦第1に

#### △広島鉄鋼特約店組合 (西本維文理事長)

5月27日(水)ウェルシティ広島で21年度定時総会を開催。冒頭、挨拶に立った西本理事長は「この1年で業界の状況は大きく変わった。鉄鋼業界は急激な需要の低下で、深い傷を負っている。厳しい状況だが、こういう時こそ、組合員が情報交換を行い、お互い助け合って維持発展を図っていこう」と呼び掛けていた。同組合はソフトボール大会、ボウリング大会のほか、11月に研修視察会を予定している。

#### 正副会長再任、11月に創立40周年記念パーティ

#### △大阪鉄鋼流通協会 (阪上正章会長)

5月22日(金)大阪市西区の鉄鋼会館で定時総会を開催。阪上会長は「足元は回復気味だが、大きく回復することは当面期待できない。7割販売の中でどう収益を確保していくかが課題。それをクリアしていく手助けをするのが業界団体の役割だと思う」と挨拶を述べていた。本年度は改選期であったが、正副会長は留任、新理事に和田康一郎氏(三栄金属)が選任された。また、11月18日に創立40周年記念パーティを開催することを決定した。

#### この1年が勝負の時、と小野理事長

#### △北九州鉄鋼販売業組合 (小野建理事長)

6月5日(金)北九州市小倉北区「論吉寿し」で開催。会員19名が出席した。今回、新たに松木産業(松木栄一社長)が同組合に加入した。小野建理事長は「『松木産業』の加入で、徐々に組合員が増えてうれしく思う。我々は本業を全うしていかなければならない。足元を固めてチャンスを待てば、必ず道は開かれる。この1年、勝負のときと捕らえて、ともに頑張っていこう」と挨拶した。

### 例会で危機的状況の対処をアピール

#### △東北鉄鋼販売業連合会 (齋藤芳郎会長)

このほど仙台市内で21年度第1回例会を開催。併せて佐藤均・三井物産スチール東北支店長を招き「内側から見た中国鉄鋼業」と題する講演会を行った。齋藤会長は「去る5日、岐阜市で開催された全鉄連総会で『危機を乗り切る信念と気概を』とのスローガンが採択された。これは今の状況が不況などという生やさしいものでなく危機的状況であるとの認識に立脚している。まさにその通りで、月を追って状況は悪化している。今回の危機は尋常でない。メーカー減産にもかかわらず底が見えない。逆に底割れに近いことが起きている。底値感を見いだせず、安くしたからといって売れる場面でもない。やはり今は辛抱の時、過去に学習したことを思い出すことが肝要」と厳しい状況を語っていた。

#### 暑気払いで懇親を深める 青年部会

7月24日(金)東北鉄鋼販売業連合会青年部会(代表幹事・越後善行・東北鋼材販売棒鋼建材部課長)は仙台市のキンビール仙台工場で「暑気払いビール大会」を開催。13社26名が参加した。越後代表幹事は「状況は厳しいが親睦を深める機会としてほしい」と挨拶していた。

#### 2団体1社共催で囲碁大会

#### △東京鉄鋼販売業連合会 (出店要蔵会長)

8月1日(土)第42回東鉄連親睦囲碁大会が中央区の京橋鉄友会事務所で開催された。今年から協同組合京橋鉄友会が共催団体となり、従来の鉄鋼新聞社とともに2団体1社による運営となった。競技は参加16名が本因坊、A、Bの3クラスに分かれ優勝を争った結果、高段位者が競う本因坊クラスは細谷栄一氏(6段、千代田鋼材OB)が2年ぶり3回目の優勝で稲山杯を獲得した。Aクラスは新井孝治氏(4段、新井鋼業)、Bクラスは満田純一氏(初段、西山鋼業OB)がそれぞれ優勝。

#### コスト意識を持って厳しい状況に対処を

#### △北海道鋼友会 (今井國雄会長)

7月23日(木)札幌市内「札幌アスペンホテル」で21年度第1回担当者部会を開催した。当日は道内各地から営業担当者など38名が参集した。開催に当たって今井会長は「現状、鉄を扱っている者にとっては営業努力を超えた厳しい状況である。これは全国皆同じだ。需要が増えることは期待できないだけに、コストを考えた商売が大切」と挨拶。特別顧問の藤光正治氏(藤光鋼材会長)は「市場は日々変化しており、予断を許さない企業が生き残るには売上至上主義でなく、適正口銭確保や在庫圧縮などが重要。今こそ底力を発揮してほしい」

と所見を述べていた。その後、需給調査委員長の浜中章央氏（富安専務札幌支店長）が市況概況を説明し、佐藤一義氏（マルキンサトー取締役営業部長）が「鉄鋼を取り巻く環境について」をテーマに講演した。

## 関連会議報告

### 鉄鋼課連絡会

8月26日（水）

会場 鉄鋼会館803号室

出席 葛岡・鈴木（経済省）林・丸岡（愛知）出店・佐藤（東京）阪上（大阪）井上（神奈川）今井（新潟）南（石川）

\*会議に先立ち、経済産業省新任担当官として着任した鈴木流通係長を紹介した。

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は87,100円前月比+300円、前年同月比-42,400円。一般形鋼よりH形鋼の荷動きが悪い。まとまった注文がない

●経済産業省からは、生産計画をヒアリングしたが、輸出がかなりいいとの感触を得ている。予算要求のシーズンになっているが、総選挙を控えているので例年とは趣を異にしている、などの話があった。

●全鉄連より、このたびの東名高速道路に崩落箇所が発生したことについて、行政として全面的な点検、補修を行う動きはあるか、との質問があった。それについて、経済産業省からは予算の問題もあり、具体的な話は聞いていない、とのことだった。

### 常任理事会

●各地区代表者会議を10月8日（木）正午より午後3時まで、茅場町「鉄鋼会館」にて開催。案内状は送付済

●11月6日（金）に第6回鉄鋼営業中堅社員研修講座を浦安鉄鋼会館にて開催。実施詳細が決定次第、募集パンフレットを全会員にFAX送信する。

●創立40周年記念を明年6月4日（金）に挙行し、同日に22年度定時総会も開催する。開催地は東京、会場は未定。

●10月26日（月）普通鋼電炉工業会との懇談会（本年2回目）を鉄鋼会館にて開催。

## 第410回鉄流懇概要

### 回復の兆しはあるが、低レベルで推移

●東鉄連からの概況報告（佐藤）

△鉄筋…メーカー値上げに対するゼネコンの反応は鈍い。メーカーはスクラップ上昇を吸収していくために売り腰を強くしていこう。

△平鋼…7月に一部メーカーが値上げをしたが、市中の反応は鈍かった。スクラップが上がり、東鉄も上げている。となれば、平鋼メーカーも値上げの機会を、一般形鋼メーカーの動向を見ながら、探っている状況であろう。市中は下落がやっと収まってきた段階である。

△形鋼概況…7月部会調査では前月比で販売4.5%増、倉出し出庫5.7%増、在庫4.6%増。ほとんど変わりなく低位安定が続いている。

△H形鋼…7月末ときわ会在庫は21万7500トン、前月比

3.5%増加。出荷は伸びたがレベルは低い。仲間と末端では価格差が生じている。メーカー値上げを転嫁できるか不安。

△一般形鋼…8月契約、9月契約と2ヶ月連続値上げとなったが、8月契約分が未達である。その一方で、市場には未だ安値が横行している。

△C形鋼…建築が低位安定で推移しているため、荷動きは前年比半減。底値を固める市況展開となっている。

△広幅製品…ここ数年、建築物の少なさで伸び悩んでいる。前年比70%減。

△コラム…出荷が落ちている。前年比で半分ほどになっている。先行きも建築需要は出てこない。

△薄板概況…自動車需要は回復しているが、全体としては低迷。在庫は凄く減って、品薄感も出ているが、需要がないのでどうにもならない。値戻しムードは高まっているが、ムードだけで終わっている。

△冷延…9月あたりタイト感が出てくるだろう。厚手のほうにその傾向が強い。

△表面処理…歯抜けが出ており、アロイタイプは市中で探してもなく、高くても売れている。9月以降は現状の10%増の動きと見ている。

△厚板耳付き・切板母材…部会調査による7月販売量は19,777トン前月比22.6%増、昨年の月間平均販売量は約4万トンであるから、前月比大幅増とはいえ、半減した状態に変わりはない。在庫では耳付き、コイルが減り、入荷が絞られている。ホットコイルの在庫調整は終わり。東鉄値上げを含め、先高感はあるが至難の技である。

△中板・ホットコイル…昨年からの在庫調整がやっと目に見えた形となってきた。この前まで山のようにあった在庫が急に減って歯抜けが出ているが、在庫バランスが悪い。

△厚板定尺…全体的に極めて低調。仕事が少ない。引き合いも少ない。

△敷板…荷動き低調。引き合いはほとんど小ロットで2枚、3枚の補充買いである。

△縞板…7月は前月比20%ほど増加したが、前年比では未だ大きな落ち込みが続いている。5月までに在庫調整は終わり、6、7月と横ばいで推移している。

△鋼管概況…5、6月は最低であったが、7月に入りやや上向きとなった。

△高炉品…シームレス管は建機主体なので、発注はストップしたままである。在庫は徐々に減っているが、今の動きからして年内いっぱい掛かりそうだ。白ガス管はビルの設備投資関連に出ているが、価格競争が激しい。

△溶協品…天然ガス関連の輸出案件が決まっていない。土木関連が出るのは11~12月頃であろう。プラント関連は10~11月頃だろう。造船には一部キャンセルもある

### 内需に回復感なく、値上げに伴う価格混乱懸念

●O S Aからの概況報告（阪上）

4~6月に需要の底打ちが見られた。一部エコ家電、耐震工事に荷動きはあるが、産業機械、建設機械は一向に回復せず、中小建築物が少ない。大手ファブは手すき状態。厚板在庫は少し減ったが、まだ多い。その他の品種は適正在庫であろう。8月、9月と条鋼メーカーの値上げで市況も反転しているが、荷動きの伴わない値上げである。コラムの荷動きは超低調。前年の大幅値上げと今年のH形鋼大幅値下がりでもコラム離れが進んだ。ここに来てコラムも下がってきたのでこの現象が収束する

と思われるが、設計から着工までの期間を考えるとコラム離れが年内続くという見方もできる。国内需要に回復感はない。他方、需要見通し、生産計画には増産傾向が見られる。値上げが実行される過程において價格的混乱が生じるが、店売りとの適正な價格差の構築をお願いしたい。

## 前月比好転、前年比7割の水準

### ●愛鉄連からの概況報告（丸岡）

7月販売は前月比では好転しているが、前年比では実績の7割前後の水準である。ハイブリッド車の好調でオイルセンターの稼働は上がっている。耐震工事は出ているが、一般建築は減少傾向。産業機械、建設機械は非常に悪い。今後、ファブの信用不安が増幅されるだろう。市況は7月、8月と一応締まってきている。

## 見込みより遅れる物件の動き

### ●神奈川からの概況報告（井上）

8月は仕事が少ないので同業者や得意先も休みを多く取った。地場自動車関連企業の九州移転が延期となった厚板はやっと在庫が減りだした。トラックは50%まで回復した。当初の見込みより物件の出が遅れている。メーカーには実需に見合った生産をお願いしたい。

## 見通し難の需要動向

### ●新潟からの概況報告（今井）

この2～3月あたりから会員会社の7割が赤字となっている。薄板は自動車やエコ家電の需要で回復しているが、地方にはその恩恵が少ない。地場Hグレードファブが7月下旬から2カ月間工場を休業することになった。目先の需要のなさから休んだ方がいいという選択であった。耐震工事が出ているが、その後、どんな案件が追いかけてくるのか、見通せない。

## 文教関係の工事が見込まれる

### ●石川からの概況報告（南）

民需はそれほど変わってはいないが、正月あたりに納入される建設機械向けの手当てで引き合いがある。公立学校の耐震工事、老朽化による補修工事などの仕事が見込まれているが、実際に物が動くのは来年であろう。公立の文教施設にはこのような対処が採られているが、私立はどうなのか、という疑問が湧いてくる。

## 需給改善も、問題点内包

### ●林会長（総括）

需給は改善している。電炉はスクラップの値上がりにより連動して製品価格を値上げしている。高炉も同様の動きであろう。流通にとっては値上げを転嫁できるか、という懸念があり、末端、地方へ行けば行くほどその不安感が高まっている。在庫は通常であれば暴騰するぐらいの過少な水準となっている。全国の流通が在庫減らしに注力した結果、在庫調整が進みすぎたきらいがある。価格は1年前に比べて4割ほど下落している。この状況を踏まえ、メーカーは価格重視の姿勢となっている。ゼネコン、各ユーザーの購入姿勢は判然としていないが、上がるなら、ここで買っておくかという姿勢も一部にはみられる。ただ、このたびのメーカーの生産回復、価格改定の動きには対外要因、特に中国市場の動向によるところ

大きかったのではないか。その点をよく見極めてほしい国内では僅かに公共事業が出件されている。これが継続していくのか、先々を危惧している。パラマキだけでは企業の仕事に結びつかない恐れがある。排ガス規制の問題、製造業関連の海外移転など国内市場を専らとする当会会員にとって、市場動向とは別の次元での懸念材料が横たわっている。

\*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

## プラス成長となったが脆弱な側面も

### ●経済産業省（小糸課長）

経済関係の各指標には改善の方向がうかがえるが、本格的回復とは言えない状況。やっと底は打ったという状況でこれからが正念場であろう。7～9月の生産計画をヒアリングして、ユーザー業界の在庫調整が進展しているとの感触が得られた。6月末に発表した需要見通しより上方修正されたことと捉えているが、前年比ではまだの水準である。生産が上向いたのはアジア諸国への輸出増が反映されていることからであり、特に中国向けがかなりの部分を占めているという状況。しかし、中国についてはいろいろと懸念すべき材料もあることから予断を許されないというところがあり、そのような様々な状況について慎重に分析しながら対応していく必要があると思われる。8月17日、内閣府は4～6月のGDPを年率3.7%と発表した。5四半期ぶりのプラス成長である。ただこの要因には輸出頼みのところがあって脆弱な側面を覗かせている。本日、流通のみなさんの話にもあったように、建設関係や設備投資関連は相変わらず厳しい状況こうしたなか、スクラップ高を踏まえた価格改定の動きが見られる。鉄鋼の取引は厳しい状況にあり、引き続き実需見合いの取引を基本にした慎重な対応をお願いしたい。政府としても景気の腰折れにならないよう経済対策の効果などや、今後、やるべきことがあるのか、しっかりとウォッチしていきたい。

## 回復の道程険しく、我慢の時間が続く

### ●小野会長

鋼材流通加工業はここに来て最悪期を脱しつつあると思われるが、需要の不振と少ない需要を巡っての激しい競争、在庫評価損の計上により、大変厳しい状況に置かれていることに変わりはない。景気の現状をみると、漸く底入れ、緩やかながらも回復へ、との基調にあると思われるが、大幅な在庫調整の反動と各国の経済対策によって底上げされた「上げ底の景気回復」との感も拭えず先行き過度の期待を持って楽観視することは禁物。今後腰折れすることも十分にあり得るとの認識に立って、引き続き緊張感を持った対応が重要。4～6月の実質GDPは年率3.7%の成長になったが、地方、中小企業、建築、土木分野にはまったく実感がない。底入れ、回復傾向にあるという景気回復の内実は、好調な新興国外需と自動車など一部の製造業に引っ張られたものであり、産業分野によって跛行性が非常に大きい、偏ったものになっている。国際的にみても自律的な景気回復にはほど遠い状況である。欧米各国の雇用不安や個人所得の停滞、家計の過剰債務および、金融危機の構造的な問題が解決されたわけではない。米国では一時小康状態にあった金融機関の破綻が再び増加している。また、好調と言われ

る中国でも7月以降、固定資産投資の伸びがかなり落ち込むなど、経済対策効果の息切れを指摘する声も出ている。国慶節を挟んだ動向に注視していきたい。景気の底入れ観測を受けて各国から減産緩和の動きも伝えられるが、実需の回復には未だ力強さが見られず、先行きは不透明である。鉄鋼需給は明暗交錯する微妙な状況にありこうした時期こそ需要分野・地域・お客様個別に、定量的かつ徹底的に真の実体需要の先行きを見極めて、慎重な対応を行うことが肝要だ。補正予算を含めた経済対策効果については、エコカー減税や家電エコポイントなどはいち早く効果が出ているが、建築、土木分野では未だ実感が無い。予算の早期執行を含めた秋需の拡大を大いに期待している。今後も鋼材流通にとって厳しい状況が暫く続きそうだ。急激な景気の落ち込みから1年近くになるが、もう暫く我慢と辛抱を続けるしかない。足元、少ない需要を巡って激しい競争や疑心暗鬼の横行も伝えられているが、景気の底入れ観測もある現在、あともう暫くの我慢だ。こうした時期こそ、改めて自社の強み、弱みを総点検して、自らが信じる改革を、地道にかつ果敢に実行することが大事である。

#### 会員企業消息（平成21年 6月 1日～21年 8月31日）

##### 〔所在地・代表者変更など〕

- 阿部商事(株)（北海道）～新代表者に阿部明弘氏が就任した。
- 小野建(株)広島支店（広島）～新支店長に五島幸春氏が就任。
- 片山鉄建(株)福岡営業所（福岡）～新営業所所長に山田寛氏が就任。
- (株)富士商会（筑後）～新代表者に木村洋明氏が就任した。
- (株)トーセン仙台営業所（東北）～新営業所所長に石原均氏が就任。
- 福井県鋼材販売事業協同組合～このたびの役員改選により、新理事長に山本直孝氏（カラヤ(株)代表取締役）が就任。組合事務局を同社内に移転。
- (株)前堀商店（北海道）～(株)前堀に社名変更した。
- 須田鋼材(株)（東鉄連・本所）～本社所在地を太田市新田反町112-2に移転、電話番号を0276-56-2821に変更。
- (株)ヒロタキ（東鉄連・本所）～新代表者に廣瀧重穂氏が就任。
- 森田鋼板(株)（東鉄連・本所）～新代表者に森田浩司氏が就任。

#### 会員入退会（平成21年 6月 1日～21年 8月31日）

##### 〔入会〕

\*該当事項なし

##### 〔退会〕

- ナカジマ鋼管(株)（東鉄連・京橋）
- (株)山田パイプ店（東鉄連・鋼管）
- 東亜金属工業(株)、(株)ニッコー大阪本社、(株)イズミ（OSA）

（了）

8月21日締切で、当会役員165名に対し、このアンケートを行ったところ、104名(63.0%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

\*D I 算出方法 = (A × 2 + B × 1 - D × 1 - E × 2) ÷ 回答数 × 100

前年同月大幅割れ続く

【問1】貴社の7月(先月)の総売上金は、前年同月比如何でしたか。

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	7月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		
▲39	▲95	▲82	▲96	▲122	▲135	▲166	▲176	▲167	▲182	▲170	▲142	数量	2(2%)	0(0%)	13(12%)	8(8%)	80(73%)	103	▲159
95	54	72	43	▲18	▲51	▲126	▲168	▲168	▲181	▲181	▲160	金額	1(1%)	1(1%)	10(10%)	6(6%)	85(82%)	103	▲168

販売減少傾向払拭できず

【問2】貴社営業窓口から見て8月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	8月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		かなり増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		
▲84	▲52	▲74	▲96	▲100	▲104	▲99	▲78	▲94	▲103	▲58	▲34	公共建設向	2	4	37	23	17	83	▲59
▲79	▲63	▲84	▲112	▲123	▲136	▲121	▲114	▲119	▲124	▲87	▲70	民間建設向		4	32	28	27	91	▲86
▲51	▲22	▲79	▲110	▲153	▲155	▲146	▲134	▲116	▲117	▲64	▲24	自動車向		7	23	10	11	51	▲49
▲67	▲36	▲63	▲97	▲124	▲130	▲125	▲117	▲119	▲115	▲80	▲53	その他需要家向		5	33	26	24	88	▲78
▲80	▲64	▲78	▲106	▲124	▲129	▲126	▲117	▲110	▲112	▲79	▲55	仲間取引		6	26	28	21	81	▲79
▲74	▲50	▲75	▲104	▲123	▲129	▲122	▲111	▲112	▲114	▲74	▲49	計	2	26	151	115	100	394	▲72

D I 値マイナス3桁、6ヶ月続く

【問3】貴社の7月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	7月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		黒字	若干黒字	収支トントン	若干赤字	赤字		
137	106	106	83	19	▲36	▲93	▲108	▲113	▲129	▲130	▲121		3(3%)	6(6%)	12(11%)	29(28%)	54(52%)	104	▲120

秋口も回復は期待薄

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	8月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		
▲34	▲4	▲98	▲124	▲151	▲131	▲93	▲108	▲69	▲50	▲31	▲22		2(2%)	34(33%)	40(38%)	8(8%)	20(19%)	104	▲10

需要低迷で在庫調整鈍化

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	需要状況 原色角虫	A	B	C	D	E	計	8月 D I
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I		非常に不足	やや不足あり	ほぼ需要均衡	やや過剰な味	非常に過剰		
4	▲8	▲35	▲54	▲72	▲46	▲57	▲46	▲41	▲30	▲41	▲36	鉄筋用丸鋼		2	39	15	1	57	▲26
▲4	▲7	▲20	▲30	▲50	▲49	▲52	▲42	▲48	▲32	▲49	▲39	構造用丸鋼			35	13	2	50	▲34
▲4	▲14	▲40	▲43	▲51	▲49	▲68	▲60	▲65	▲47	▲50	▲45	平角鋼			46	15	2	63	▲30
7	▲13	▲55	▲31	▲75	▲58	▲71	▲71	▲41	▲40	▲45	▲42	H形鋼		1	36	18	2	57	▲37
58	44	0	▲31	▲57	▲62	▲62	▲73	▲84	▲71	▲69	▲79	コラム			15	25	5	45	▲78
▲11	▲20	▲51	▲45	▲63	▲55	▲38	▲51	▲49	▲37	▲38	▲33	小形山形鋼		2	46	15	1	64	▲23
▲7	▲24	▲53	▲48	▲60	▲50	▲37	▲43	▲42	▲34	▲36	▲32	中形山形鋼		3	50	12	1	66	▲17
12	▲4	▲40	▲48	▲59	▲60	▲45	▲56	▲62	▲47	▲43	▲34	溝形鋼		2	47	11	1	61	▲18
▲20	▲29	▲40	▲47	▲66	▲65	▲67	▲61	▲56	▲43	▲57	▲48	軽量形鋼C形		1	35	19	2	57	▲39
▲3	▲14	▲22	▲34	▲58	▲58	▲64	▲56	▲60	▲45	▲57	▲46	軽量形鋼広幅			27	10	2	39	▲36
2	▲2	▲43	▲47	▲83	▲88	▲110	▲119	▲100	▲79	▲50	▲48	冷延薄板		7	33	10	1	51	▲10
▲3	▲17	▲48	▲67	▲83	▲89	▲110	▲110	▲84	▲66	▲46	▲35	熱延薄板		4	48	12	2	66	▲18
▲8	▲18	▲39	▲58	▲77	▲78	▲100	▲102	▲96	▲77	▲48	▲43	表面処理鋼板		7	27	14	1	49	▲18
▲14	▲29	▲71	▲82	▲89	▲100	▲114	▲122	▲118	▲91	▲55	▲32	酸洗鋼板	1	11	26	11	2	51	▲4
▲4	▲10	▲52	▲63	▲86	▲83	▲105	▲95	▲84	▲54	▲42	▲33	中板		6	47	16	2	71	▲20
76	66	38	▲2	▲35	▲41	▲79	▲41	▲91	▲66	▲68	▲59	厚板		1	35	24	7	67	▲55
100	92	70	31	11	▲5	▲36	▲40	▲65	▲45	▲45	▲49	極厚板		2	18	17	3	40	▲53
7	4	▲26	▲33	▲28	▲37	▲52	▲59	▲60	▲40	▲29	▲30	縞板		1	42	13	2	58	▲28
0	▲6	▲30	▲37	▲36	▲49	▲58	▲63	▲63	▲51	▲56	▲47	中径角			35	21	2	58	▲43
0	▲4	▲21	▲25	▲38	▲32	▲63	▲59	▲65	▲49	▲46	▲43	ガス管・黒	1		37	16	3	57	▲35
▲6	▲5	▲20	▲25	▲41	▲36	▲62	▲61	▲64	▲52	▲53	▲49	構造用鋼管			32	15	3	50	▲42
7	▲2	▲30	▲40	▲58	▲58	▲70	▲71	▲68	▲52	▲48	▲42	計	2	50	756	322	47	1177	▲31

## 鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2009年8月)

発表者 発表項目	高炉 JFESチール
1. 需給動向 (景況感)	<p>6月の鉱工業生産指数は、前月比+2.3%と4ヶ月連続の上昇、在庫指数も前月比▲1.0%と6ヶ月連続の減少となるなど、在庫調整と生産回復の動きが鮮明になってきている。</p> <p>しかし、内閣府は8月の月例経済報告で、生産や輸出が引き続き「持ち直している」と指摘したが、失業率が過去最悪の水準に近づくなど「雇用情勢は急激に悪化している」と懸念をにじませ、景気の基調判断を「厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる」として4カ月ぶりに据え置き、「景気は底を打ったが、水準は低く、まさに正念場にある」との見解を示した。</p>
2. 需要産業動向	<p>建設、製造業ともに低迷した状況が続いている。</p> <p>[建築] 6月新設住宅着工戸数6.8万戸 (前年同月比32.4%減)          [自動車] 7月国内販売43万台 (前年同月比5.2%減) 12ヵ月連続前年比減も、減少幅が大幅に縮小。          6月完成車輸出32万台 (〃46.0%減) 9ヶ月連続前年比減。          [産業機械] 6月受注 前年同月比35.0%減。6ヶ月連続前年比減。          [造船] 6月新造船受注219万GT (前年同月比+72.8%) 2ヶ月振りの増。          5月起工量155万GT (〃+39.7%) 3ヶ月振り増。          7月末手持工事量6019万GT (前月比1.0%減) 10ヶ月連続減。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出]          6月の全鉄鋼輸出は、前年同月比11.0%減の287万トンと、9ヶ月連続の減。ただし、数量的には08年10月水準近くまで回復。          [輸入]          6月の普通鋼鋼材輸入は、前年同月比50.0%減の17.1万トンと、8ヶ月連続の減、前月比では0.2%増と2ヶ月ぶりのプラス。</p>
4. 海外市場動向	<p>7月の世界粗鋼生産は、前年同月比11.1%減の1億386万トンと11ヶ月連続で前年比マイナスとなったが、内需を中心に好調な中国は、初めて5000万トン台(5068万トン)を記録し、3ヶ月連続の増。</p>
5. トピックス	

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (景況感)	伊藤忠丸紅鉄鋼	高戸メーカーは7月から店売り販価の修正に踏み切り、黒ガス管の市中価格も昨年の高値に比べ値下がり傾向となっている。協メーカーの製品については、母材コイル価格の安値は正の動きにより、底値感が出てきた模様。市中在庫については、機械構造用鋼管(シムス)以外はほぼ在庫調整が終了しているが、未だ需要レベルが低く、当用買いに終始する傾向にあり、販売は苦戦している。	岡谷鋼機 6月末の薄板三品在庫は5月末比22万トンの減の354万トと5ヵ月連続、7年ぶり(02年11月末)の水準まで減少した。店売りマーケットへの影響度が高い建築需要は依然として低水準も自動車など製造業の回復基調もあり、一部品種で借抜けも出ているなど市況動向は総じて強さみ。	JFE商事 造船向けは足元比較的堅調を維持しているが、月を追うごとに手持工事量は減少。生産機、建築向けも低調で、他品種に比べ回復が遅れているが、市中在庫は減少傾向にある。	(棒鋼) 7月末に先物駆込み的な引合があったが、以降は、新規需要は閑散気味。 (形鋼) 実需なく荷動きが悪いため、値上げに需要家の抵抗もあり厳しい状況に。
2. 需要産業動向		自動車向け関係は、今後下期も数量回復が見込めるが、建機・産機関係は依然低迷が続いており、建築・土木関係も同様である。今後は選挙の動向もあり、様子見の状態。	自動車関連では6月の四輪車生産が前年同月比33.9%減の68万トと9ヵ月連続での減少だが、コルカ減税等もあり前月比7.5ポイント改善するなど回復基調。弱電関連でも6月生産はコイル等からの影響から液晶テレビ(26%増)、冷蔵庫(17%増)などは前年同月比2桁の伸びとなった。一方、建築関連においては、公共事業関連の予算執行が若干ながら出ているものの、6月の新設住宅着工戸数は前年同月比32.4%減の6.8万戸、非住宅着工床面積も同30.8%減の394万㎡となるなど深刻な低迷が続いている。	造船の6月末手持工事量は前月比1.2%減の6,079万G/Tと9ヶ月連続のマイナス。建設機械の6月の出荷金額は825億円で前年同月比64.6%の減となり、9ヶ月連続の減少。国内は346億円で41.9%の減(15ヶ月連続減)。輸出は479億円で72.3%の減(8ヶ月連続減)。産業機械の受注額は3,769億円で前年同月比35.0%減。国内は2,661億円で16.2%減。輸出は1,108億円で57.8%減。建築は全般的に低水準。景気対策の効果を下期に期待。	高炉・電炉共に車載追隨の様相であり、市中も9月以降更に販売単価に転嫁を目指す。ただし、需要が伴っていない為、全体的市況の値上げは困難が予想される。
3. 輸出入動向		6月の鋼管貿易は輸入において韓国材の溶接鋼管が5月比70%の大幅増となった。	6月の薄板三品入着量は前月比11千トンの減の116千トと熟延、冷延、亜鉛メッキの全品種で減少。岸壁在庫も東京・大阪各地区で減少(合計29千ト減少)。一方、6月の薄板三品輸出量は前月比31%(247千ト)増加しており、特に中国を中心としたアジア向けに増加している。	6月の輸入実績は8,400トで前月比2,900ト減。輸出は264千トで前月比33.3%増。前年同月比7.1%減。	輸出 8月足元のスクラップ輸出は、現在発生層が大幅に減少している中、日本、中国、韓国の3社が奪い合う構図となっている。 韓国メーカーの日本滑り引き合いH2層は強基調で推移。H形鋼に関しては4-5月で23千ト(2008年度計188千ト)の実績となったが、為替や国内メーカー一動向により、変化する可能性が高い。
4. 海外市場動向		延期・中止が相次いでいたライオン・グロブレットも徐々に動き出してきた。但し、大型案件は、殆ど2010年以降の出荷であり、今期は厳しい状況が続く見通し。米国のリク・カントは、6月中旬を底(876基)に、その後緩やかに上昇しつつある(7月末時点で948基)が、昨年同時期に比較すると未だ半分以下という水準であり、市中の在庫レベルも高く、油井管需要回復には未だ時間がかかると見通している。	世界経済は、各国の景気対策が功を奏し、ようやく最悪期を脱しつつある。しかしながら、米、EUなど主要国における雇用情勢の悪化に加え、財政赤字拡大への懸念も強まっており、今後の景気回復に向けて予断を計さぬ状況である。そのような中、鋼板類については、米国、EUにおいても在庫調整の進展により上昇傾向がみられ、中国、インドにおいては乗用車、家電生産などが高水準で推移しており、国内市況は強さみの状況。	中国では9月以降値上を実施する大手メーカーもあるが、市中価格は足元やや下落傾向にある模様。	中国経済は一部では経済パブルではという噂もあるが内需を中心に実需はまだ伸びてゆくと思われ。粗鋼生産の旺盛であり、このままのペースでゆくと6億ト/年を上回る可能性あり。(輸出向けよりも内需むけ重視) 公共投資は継続され、例えば鉄道関連の投資だけでなく年間約10億円の投資が数年は継続する見込み。
5. トピックス					